

# ひょうごの主な神社仏閣

神戸・兵庫の郷土史Web研究館 資料 dt31jbl.pdf



## 神戸

名称	所在地	特 色
保久良神社	神戸市東灘区本山町北畑680	祭神は、須佐之男命。弥生時代の遺跡で知られる「灘の一つ火」で有名。又梅の名所としても知られている。
弓弦羽神社 ゆづるは	神戸市東灘区御影町字弓弦羽森1810	三韓より帰国の神功皇后に対して謀反を企てた忍熊王が祈願のため、弓矢甲冑を山中に埋めたことから弓弦羽権現宮とよばれるといわれる。
摩耶山 切利天上寺	神戸市灘区摩耶山	飛鳥時代（6祓年）法道仙人の開創。弘法大師が摩耶夫人像を安置。安産のまもり神としても信仰がある。
敏馬神社 みるめ	神戸市灘区岩屋中町ヤト8	祭神は、須佐之男命ほか2柱。昔、社前はみぬめの浦といって、奈良朝時代には、百船の集う港であった。
徳光院	神戸市中央区葺合町字布引山2-3	開山堂には、元、いさご山の六英堂にあった西郷隆盛、伊藤博文ら6偉人の写真と位牌がまつられている。又、多宝塔をここに移す工事のとき、中国の古銭が発見され寺に保存されている。
生田神社	神戸市中央区下山手通1丁目10	祭神は雅日女命。源平合戦の生田の森で有名。また、夏まつりの大海祭は、生田さんの夏まつりとして有名。
三宮神社	神戸市中央区三宮町2-29	西北に河原兄弟の塚かおり、境内には戦前には有名な清水の湧く井戸があって、人港船はこの水を汲み入れていた神社前は、神戸事件の発生地である。
回教寺院	神戸市中央区中山手通2丁目57	昭和10年9月完成の日本最初の回教寺院、三日月を尖塔にいたいた4つの塔と、白いドームが目を引く。
湊川神社	神戸市中央区多間通3-1	明治5年、明治天皇の創祀。祭神は楠正成。建武中興の忠臣楠正成をまつり宝物殿には湊川合戦の史跡が残っている。
大竜寺	神戸市中央区再度山1-3	再度山の山腹にある、和気清麿の創建と伝える真言宗の寺。本尊の如意輪観音立像は国指定重要文化財。弘法大師が人唐のときと帰国したとき再び入山したので山号を再度山と改号した。
北野天満神社	神戸市中央区北野町3-2	梅の名所でもあり、その季節には、おみくじをひいてから入場する。
関帝廟	神戸市中央区中山手通7丁目3	神戸で唯一の中国式お寺。蜀の武神、関羽をまつり、異国情緒豊かな祭りが行われる。
祇園神社	神戸市兵庫区上祇園町12	祭神は、すさのおのみこと。毎年7月に祇園まつりが行われ、神戸の夏の風物詩となっている。
西本願寺神戸 別院(モダン寺)	神戸市中央区下山手通8-1-1	三暦のインド佛教式人理石建造物。ブロンズ像、ステンドグラスなどが見られる。
(柳原) 蛭子神社	神戸市兵庫区西柳原町	元禄9年(1696)の絵図に出ている神戸では最も著名な戎神社。正月の十日えびすには多数の参詣者が境内を埋めつくす。
長田神社	神戸市長田区長田町3-1-1	広田、生田の神とともに、この神社の祭神、事代主命は、「恵美主さま」、「福の神」ともいわれ、あらゆる産業の守護神として崇敬されている。節分の日の鬼追行事は有名。
禅昌寺	神戸市須磨区禅昌寺町2	延文年間（1360前後）後光厳天皇の勅を奉じて月庵禅師の創建、総門は左甚五郎の作といわれ、境内はカエデが多く、もみじ寺として親しまれ、又開山堂の軒に雀のお宿のひょうたんがたくさんつるしてある。

名称	所在地	特 色
須 磨 寺	神戸市須磨区須磨寺町4-6-8	真言宗須磨寺派大本山、本名は、上野山福祥寺といわれる。源平合戦の名所で、宝物殿には青葉の笛、弁慶鐘、弁慶若木制札、敦盛画像などがおさめられている。
綱敷天満宮	神戸市須磨区天神町2-1-11	祭神は菅原道真で学問の神である。
厄 除 八 幡	神戸市須磨区多井畑町宮脇	多井畑の厄神さんの名で親しまれる。神護景雲4年(770)、播磨から摂津への入口で疫神を祭って災厄が畿内に入るのを防ごうとした祭場の跡。社殿がはじめて造営されたのは平安末期とされている。
海 神 社	神戸市垂水区宮本町5-1	神功皇后が三韓出兵の帰路、当地海上で難航され、海神をお祭りになったところ風波がやわらいたというのが鎮座の由来。以後舟運守護神、海上鎮護の神と仰がれている。
太 山 寺	神戸市西区伊川谷町前開290	藤原鎌足の発願で、長男の定慧和尚の開基といわれ、重要文化財の多いことでは、県下一といわれる。春の桜、夏の新緑、秋の紅葉等の風光はすばらしい。
如 意 寺	神戸市西区析谷町谷口259	法道仙人の開基。鎌倉時代には塔頭24坊を数えたという。本尊の地藏菩薩、三重塔、阿弥陀堂と舞台造りの文殊堂は国指定重要文化財。
性海寺福智院	神戸市西区押部谷高和1m	734年、奈良時代、行基自作の阿弥陀如来を安置したのが寺の始まりと伝え1月15日の追難式は赤青の本鬼、チョケ2人、子鬼6~10人が踊る。本堂内陣に寛文5年(1652)奉納の歌舞伎絵馬がある。
湯 泉 神 社 とうせん	神戸市北区有馬町1908	有馬温泉を発見された大己貴命、少彦名命、熊野久須美命が祭られている。
温 泉 寺	神戸市北区有馬町1639	奈良時代行基の建立と伝え、現在の温泉寺は奥の院の清涼院を移したものだ。本尊は薬師如来で、1月2日に入初式が行われる。木造波夷羅大将と黒漆厨子は国指定の重要文化財。
外 人 墓 地	神戸市北区山田下谷上中一里山4-1	昭和29年小野浜外人墓地、昭和36年春日野外人墓地を移転し、昭和54年までに国籍50余、2,500人となっている。
無 動 寺	神戸市北区山田町福地字新池100番地	オコナイ祭は中世から行われているもので、非常に珍らしく、コン棒で床を乱打し、その年の豊作と無病息災を祈る。
六条八幡神社	神戸市北区山田町中字宮の片57	境内には文正2年(1466)3月建立の棟札をもち、室町中期の特徴をよく示している三重塔(国指定重要文化財)がある。
石 峯 寺	神戸市北区淡河町神影115	法道仙人の開基とされ、本尊は延命地藏菩薩、本堂右手にある薬師堂は和様を基調とした天竺様との折衷様式。その奥の三重塔は高さ24.5m。室町初期の建築で県下最高の塔、共に国指定重要文化財。

## 阪 神

名称	所在地	特 色
桜井神社	尼崎市南城内1舘	明治15年に城主松平氏の祖、桜井内膳正信定を祭神として造立された。社宝のうち鎌倉時代の逸品の太刀は、重要文化財に指定されている。
富松神社	尼崎市富松町2丁目23-1	現在の本殿は寛永13年(1636)に社司良雄が再建したもの。組物(三ツ斗組)墓股などは極彩色で、壁は絵画が施されており、華麗な桃山時代の余風をよく伝えている。県指定重要文化財。
治 田 寺 じでんじ	尼崎市戸ノ内町2丁目4	高野山真言宗の末寺である。阿弥陀如来坐像が県指定重要文化財になっている。藤原時代末期の作といわれ、中央の仏師の手になった作品とみられ、当地方と京都あるいは奈良との密接な関係を物語る資料となっている。
長 遠 寺 ちょうおんじ	尼崎市寺町10	現在残る主要堂宇は本堂・多宝塔・鐘楼・客殿・庫裏などで、このうち鐘楼と庫裏は建立年代が明らかでなく、いずれも数度にわたる修理をつけているが、当初の形態をよく残っていて、桃山時代の建築を知るうえで貴重。

名称	所在地	特 色
本 興 寺	尼崎市開明町3丁目13	応永27年(1420)に口隆上人が草創した名刹である。市内に現存する寺院としては穀大の規模であり、寺宝・資料の多い点でも唯一の大寺院である。国・県指定重要文化財が多い。
大 覚 寺	尼崎市寺町9	現存する尼崎最古の名刹である。寺伝では椎古天皇13年(605)に聖徳太子加日羅に命じて草創したと伝えている。中世文書として珍重されている数千点の大覚寺文書は県指定重要文化財。
広 田 神 社	西宮市広田町7	延喜式には名神大社としてつらなり天照人神の荒魂をおまつりした古い由緒と歴史をもった有名な神社で、境内一帯に自生しているコバノミツバツツジは県の天然記念物に指定されている。
越木岩神社	西宮市甕岩町5-4	創建は正保年間といわれ、西宮神社と同じ蛭子命をまつている。社殿のうしろに高さ約12m、周囲約30m、頂上に松や雑木が自生する巨岩“甕岩(こしきいわ)”がある。
西 宮 神 社	西宮市社家町1-17	“えべっさん”の愛称で全国に広く知られている。毎年正月の十日エビスには百万人を超える人出でにぎわう。
門 戸 厄 神	西宮市門戸西町2	天長6年(829年)弘法大師の開基といわれる東光寺の境内にある除厄堂の本尊両頭愛染明王がいわゆる門戸の厄神さんである。正月18・19日は初厄神として賑いを見せている。
神 呪 かんのうじ	西宮市甲山町25-1	甲山南麓にある真言宗の寺である。本尊の「如意輪観音坐像」は弘法大師の作といわれ、国の指定重要文化財である。秘仏なので5月18日の開帳以外は拝観することができない。
浄 橋 寺	西宮市塩瀬町生瀬	橋寺といい、澄空上人が武庫川に橋を架けたとき橋の管理を行うために開いた寺という。本尊の阿弥陀三尊と澄空の銘のある銅鐘は国指定重要文化財。
教 行 寺	西宮市塩瀬町名塩	蓮如上人の開いた寺で、名塩御坊と呼ばれる。寺には昔から造られた名塩紙の見本をはじめ、室町末期の古文書など多数保存している。
芦 屋 神 社	芦屋市東芦屋町	祭神は天穂日命。いまも境内は、黒松赤松、カシなどの樹木でおおわれ、市花「コバノミツバツツジ」や珍木・おがたまの木かおる。また、7世紀の横穴石室、宝塔、歌碑など、芦屋の生活文化史を彩るものが多い。
昆 陽 寺 こや	伊丹市寺本2丁目169	731年僧行基によって建てられたものといわれている。1579年信長によって焼き払われ、その後建つたのが今のもの。山門と観音堂が県指定重要文化財になっている。
黒 染 寺	伊丹市中央3丁目	江戸中期に活躍した俳人鬼貫の父子墓や句碑、また、有岡城の落城の際惨殺された婦女子を悼む女郎塚などがある。
猪名野神社	伊丹市宮ノ前3丁目	江戸時代、伊丹郷町の氏神として例祭は特に賑わったといわれる。境内に鬼貫が詠んだ句碑がある。
中 山 寺	宝塚市中山寺2丁目11-1	およそ1380余年前、仲哀天皇・大柿姫ゆかりの地に聖徳太子によって建立された名刹で、西国33ヶ所24番札所として安産祈願の夫婦や観音信仰のお年寄りでにぎわっている。また、国、県指定の仏像などの文化財も多い。
売 布 神 社	宝塚市売布山手1	宝塚市内唯一の式内社。祭神は高比売神天稚彦神。徳川吉宗奉献の社号石かおる。伊勢外宮の根源地という説がある。
清荒神清澄寺	宝塚市米谷字清シ1番地	平安時代の初め、宇多天皇の勅願寺の一つとして創建され、「火の神」「かまどの神」ひいては「水商売の神様」などと親しみ深い信心が集められている。又、同寺に富岡鉄斎の作品を展示する鉄斎美術館がある。
波 豆 八 幡	宝塚市波豆字谷田東掛	本殿は応永10年(1403)建立。(国指定重要文化財)石鳥居は応永32年、その他石造板碑、石造宝旗印塔、石造五輪塔など銘のものも多く、いずれも県指定の重文で、中世石造美術の宝庫とされている。

名称	所在地	特 色
頼 光 寺	川西市東畦野字寺谷10の1	源満仲公の夫人法如尼の発願により長保年間に源覧僧都によって開基された寺で、山号を祥雲山といい本尊の地藏菩薩は法如尼等身の念持仏であったという。またアジサイの寺としても親しまれている。
小 童 寺	川西市西畦野字杉ノ坂8	源覧僧都の開基で、幼名を美女丸といい自分の身代わりとなった幸寿丸の菩提を弔うため天延2年(974年)建立した寺である。また境内には、美女丸、幸寿丸、藤原仲光や源氏四天王の一人渡辺綱の墓などがある。
満 願 寺	川西市満願寺離東4番	多田源氏にゆかりの深い寺であるとともに、桜とさつきの名所としてもその名が知られている。天禄元年(970年)源満仲公が多田荘に居城を構えて以来源氏一門の祈禱所として信仰された。
多 田 神 社	川西市多田院字多田所1番	関西の日光とたたえられ、源氏発祥の地として、また大江山の鬼退治や石合戦で知られた神社である。神域全体は国の史蹟指定地で、本殿、拝殿、随神門は重要文化財に指定されている。
高売布神社 たかめふ	三田市酒井	祭神は、下照比売命、天稚比古命、その他で、推古天皇御代の創立。摂津川辺郡の総社と称せられた式内社で、本殿は国宝(重文)、また狛犬一対も貴重な重要文化財である。
清涼山心月院	三田市西山2丁目	三田藩主九鬼家菩提寺。寛永10年、九鬼久隆が、志川烏羽常安寺より先祖の墓碑を心月院に移した。この墓所は紀州藩のそれに匹敵するほど立派なものである。
永 沢 寺 ようたくじ	三田市永沢寺	永沢寺は標高600mの高原の北端にある。曹洞宗能登国大本山総持寺末で、通幻禅師開創の禅道場として知られ600年の歴史を持っている。ユースホステルでもあり格好の幽すい境である。
護 国 院	三田市下相野	大正11年に国宝(重文)に指定された木造の御身丈1m余りの持国天立像1軀と、多聞天立像1軀が奉安されており、この重文2体は、兵庫県国宝絵図録によると、藤原時代の特徴をよくみせた立派なものといわれている。
大川瀬住吉神社	三田市大川瀬	当社は、文永2年に、この曾根山に再建せられ、本殿は三間社流造、檜皮葺で手狭高、扇金具など、鎌倉中期の特徴をよくあらわしている。住古本地仏四体のほか貴重な宝物、文化財が保存されている。
酒 滴 神 社	三田市藍本町庵の上	貞観年間、疫病が流行したとき、素盛鳴尊のおつげによって、村の者が岩辻山に霊酒を発見、病が治まったのでここに石山大宮を創立。応永2年(1395)後小松天皇が奉納した石鳥居(県指定重文)がある。
蓮 花 寺	三田市下槻瀬678	法道仙人開創の霊地で多田源氏の信仰のあつかった寺。山門は県指定文化財であり、両脇の金剛力士像は運慶の作と伝えられている。県指定のユースホステルでもあり、若者が広く利用している。
金 心 寺	三田市天神3丁目	天智天皇の7年(668)約1,300年前、藤原鎌足の子定慧和尚が唐から帰り、日本の中心仏都を当地と考えられたこともあり、その後歴代天皇諸大名の帰依が篤く、900年の長い開、門前町として三田の町が発達したといわれている。
花 山 院	三田市尼寺	正式寺名は東光山菩提寺といい、花山院(か3のいん)とも呼ばれている。真言宗花山院派の本山である。西国三十三ヶ所霊場めぐりの番外に数えられていままも巡礼者が絶えない。
大 舟 寺	二田市波豆川	最初は「舟寺」とよばれていた。境内には樹齢300年以上と言われるカヤの木があり、昭和46年に県の天然記念物に指定されている。
香 下 寺	三田市香下1029	羽東山香下寺と称し真言宗御室派。法道仙人の開基と伝えられる。本尊は十一面千手観音像であり、いまは羽東山頂の観音堂に祀られている。この仏像が芳香を放つので、この付近を香下山と称したという。
東 光 寺	猪名川町北田原寺の前452	行基菩薩の開基、本尊は薬師如来。源頼光が鬼退治の祈願をした寺としてよりも、木喰上人の作った木彫仏14体が保存されているので有名。

名称	所在地	特 色
天 沢 寺	猪名川町木津	奈良時代行基菩薩により開創されたがかつでの楊津院と呼ばれた古刹があったところである。当寺には、県指定重要文化財、応永10年(1403)建立の春日型灯ろうは、全国屈指のものといわれほぼ完全な形で残っている。
戸 隠 神 社	猪名川町肝川	大永4年(1524)の造営であり、本社は全匡修験道の道場である戸隠三千坊のひとつである。向拝の丸桁および、下端は大面取りで古調を保っており、繫虹梁の形および組物、破風懸魚等の形式手法に室町中期ごろの技風がうかがえる。昭和54年5月、国の重要文化財の指定を受けた。
金山彦神社	猪名川町銀山	鉱石をご神体にした山神社であり、祈りをこめた石垣や灯籠の文字にも、鉱山関係有力者の名前が見受けられ、豊臣時代最も栄えたがっての銀山町を物語っている。

## 東播磨

名称	所在地	特 色
柿 本 神 社 (人丸神社)	明石市人丸町	万葉の歌人柿本人麻呂をまつり、和歌の神として、歴代の皇室や庶民の崇敬が厚い。
月 照 寺	明石市人丸町	弘法大師の創建。山門は、伏見桃山城から明石城主の御殿の山門として移築したもので、桃山時代の手法がうかがえる。境内には、有名な八つ層の梅がある。
長 寿 院	明石市人丸町2-26	天和2年(1682)以後10代186年続いた旧明石藩主松平氏の菩提寺。境内西隅に歴代藩主とその家族の墓所かおり、市指定の史跡となっている。
稲 爪 神 社	明石市大蔵本町6	明石東部の氏神。祭神は大山祇の大神伊予大三島の大山風神社の祭神と同じ9月8日～10日の秋祭りには囃口(はやくも)流し(市指定文化財)、獅子舞(県指定文化財)、鉄人の牛乗りが行われる。
住 吉 神 社	明石市魚住町中尾	神功皇后が航海の安全をいのるために祭ったという古社で、住吉神社発祥の地とも考えられている。境内に県重文の右灯籠があり、大藤、円山応挙筆の絵馬が有名。
岩 屋 神 社	明石市材木町8	明石西部の氏神。7月第3日曜日に行われるおしゃたか祭りは、成務天皇13年(143)御神体を淡路岩屋からお迎えする海上渡御を伝える海の奇祭。(市指定文化財)
瑞 応 寺	明石市二見町東二見	東二見地域の親寺。境内に仏足石。安永三義人の墓。二見築港に功労のあった増本忠兵衛の墓。大そてつがある。
薬 師 院 (ばたん寺)	明石市魚住町西岡	行基が錫杖を地につきたてた時、泉の中に薬師の尊像が現れたため、勅命を受けて閻伽(あか)寺薬師院を建てた。庫裏の庭にはポタンが多く、ばたん寺の名がある。
八 幡 神 社	加古川市八幡町野村580	天平勝宝年間に考謙天皇の御願所として創立した。和気清麻呂の厄難を救ったところから厄除の大神様として崇拜されるようになり俗に「宗佐の厄神さん」と呼ばれている。
尾 上 神 社	加古川市尾上町長田	神功皇后が三韓へ出兵された時、この宮を鎮祭された。主祭神は、住吉大明神である。高麗時代初期の朝鮮鐘である「尾上の鐘」また謡曲「高砂」の中でうたわれた「尾上の松」などが残っている。
日 岡 神 社	加古川市加古川町大野1755	天平2年の創立と伝えられ、安産の神として参詣者が絶えない。
天下原の 毘沙門さん	加古川市東神吉町天下原	鞍馬山の岩肌に刻まれた毘沙門天の磨崖仏を本尊とし、社名は大蔵神社。現社殿は平成元年7月に全面改築された加古川新八景の一つ。
長 楽 寺	加古川市志方町永室858-1	和銅6年慈心上人の開基といわれ、本尊は木造延命子安地藏菩薩半珈像で「谷の子安地藏」として安産を祈願する参詣者が数多い。また、境内には桜紅葉、椿の木が多く小鳥の宝庫でもある。
志方八幡神社	加古川市志方町志方301	明応元年、八幡神を勧請。志方荘30ヶ村を総鎮守したといわれる。祭神は品多別命ほか。

名称	所在地	特 色
教 信 寺	加古川市野口町野口465	約1,150年前、沙弥教信がこの地に草庵を結び、日本在家浄土念仏を普及した。彼の徳を偲び教信寺と名づけられた。
鶴 林 寺	加古川市加古川町北在家424	聖徳太子ゆかりの名刹で、播磨法隆寺とも称し、古くから「刀田の太子さん」と人々に親しまれている。七堂伽藍が建ち並び国宝、重要文化財が数多い。
大 津 神 社	西脇市嶋	式内社多可六座の一つで、祭神は大津命、品陀別命(はんだわけのみこと)、気長足姫命の3神である。2月19日の厄除祭は市内外からの参拝者が多い。
八 幡 神 社	西脇市下戸田	元慶元年、応仁天皇の御巡幸に基づいて建立されたと伝えられる。10月10日の例祭日には「お笑い」の神事が奉納される。
成田山法輪寺	西脇市小坂町416	千葉県成田市の大本山直系分社として県下唯一の存在であり、御本尊不動明王を勧請し、その威徳は県下一円に及び請願成就現生利益の守り本尊としてまた近年は交通安全守護の祈願道場として参詣者が絶えない。
長 明 寺	西脇市高松町600	法道仙人開基と伝える古寺である。境内には本堂、阿弥陀堂のほか鶴退治で有名な源三位頼政の墓や、頼政鶴退治のブロンズ像がある。また、この奥地の金城池付近は県立自然公園に指定されている。
西 林 寺	西脇市坂本455	法道仙人開基と伝える古寺である。境内には県指定文化財木造十一面観音立像、唐子ツバキがある。また、詩人富田碎花の歌碑やアジサイ園(10万本)などもあり境内の雰囲気はいっそうもりあげている。
西 仙 寺	西脇市西田町88	法道仙人開基と伝える古寺である。境内には本堂のほか、市指定文化財、市内最古の在銘五輪塔や同じく市内最古の在銘板碑がある。
荘 厳 寺 しょうごんじ	西脇市黒田庄町黒田	法道仙人の創建と伝えられる。この付近一帯は、夏と紅葉の季節はすばらしく、兵庫県自然環境保全地域に指定されている。建久年間に佐々木四郎高綱が造営したという多宝塔がある。
兵 主 神 社 ひょうす	西脇市黒田庄町岡	拝殿が県の重要文化財に指定されている。式内社として知られ、かつて三木城攻略に際して、羽柴秀吉が武運の長久を祈り常夜燈を献じたといわれる。
東 光 寺	西脇市黒田庄町大門	旭将軍木曾義仲の開基といわれ源氏の紋章を寺章としている。南側200mの所に木曾義仲の供養塔である十三重の石塔がある。
極 楽 寺	西脇市黒田庄町岡	三木城攻略の時羽柴秀吉が武運長久を祈った弁財天社と陣立をした腰掛石がありすわると立身出世するといわれている。
伽 耶 院 がやいん	三木市志染町大谷	現在のものは慶長15年に再建されたもので本堂の毘沙門天像は国の重要文化財に指定されている。新緑と紅葉の名所としてハイキングコースでもある。自炊が可能な方なら宿泊も出来る。10月10日に大護摩で賑わう。
慈 眼 寺 じげん	三木市久留美734	延慶2年の銘のあるこの地方でもっとも古い梵鐘がある。又、両国回向院から分墓したと伝えられる鼠小僧次郎吉の墓がある。紅葉の美しさでも知られている。
金 剛 寺	三木市大村	寺伝によると、法道仙人が、この土地で大きな「かや」の霊木をみつけ、それで十一面千手観音菩薩を刻まれて堂舎をこしらえたのがこの寺の始まりである。毎月4月の中旬には聖天祭が行われる。
蓮 花 寺 れんげ	三木市口吉川町蓮花寺	境内は約6万6千㎡あり、傾斜を利用した伽藍配置は江戸時代の傑作といわれている。紅葉の名所でもある。毎年2月第1日曜日の追灘式(鬼踊り)は善男善女で賑わう。
雲 龍 寺 うんりゅう	三木市上の丸町	白壁の美しい寺院である。一度は京都に送られた別所長治公の首級を雲龍寺の住職が持ち帰り首塚として葬っている。
本 要 寺 ほんよう	三木市本町2丁目	三木開城の折、羽柴秀吉の本陣として使用し降伏状を取り小わしたところ。境内の宝蔵には秀吉の免租の制札など数多くの「三木市有古文書」が納められ、毎月7月18日義民祭を行い、古文書を虫干しし一般に公開している。

名称	所在地	特 色
法 界 寺	三木市別所町東這田	三木城主別所長治夫妻の霊牌、画像木像のほか三木合戦記を絵物語にした大きな軸かおる。毎年2月17日には追悼法要が行われ、ゆかりのある人たちが集まって軸の絵説きをきくことになっている。
大宮八幡宮	三木市本町2丁目19-1	創建は古く、高野の里祝田社を天永2年に現地に移した。慶安3年には将軍徳川家光から社領が寄せられ公私領時代にわたって繁栄した。三木町惣鎮守として崇敬されている。10月16日～17日の秋まつりは有名である。
東 光 寺 とうこうじ	三木市吉川町福吉	中国自動車道北側山麓に本堂（国重文）多宝塔（県重文）が静かなたたずまいを示し、寺歴を示す古い文字は梵鐘銘にのこされている。本堂は、室町初、中期の建立と推定されている。
法 光 寺	三木市吉川町法光寺	県指定の重文に石造五輪塔、五輪泥塔鬼面、古文書2巻37通。中でも五輪泥塔は長さ7Cm、厚さ1Cmの小型な素焼製。表面に「あみだ八万四千の内」と読める文字が押しあてられている。
天 津 神 社	三木市吉川町前田	室町中期の特徴をそなえた建築様式、一間社入母屋造妻入の本殿は、国指定重要文化財。
歓喜院聖天堂	三木市吉川町毘沙門	応永18年(14H)に建立、三間社、流れ造のお堂は、国指定重要文化財。
稲 荷 神 社	三木市吉川町富岡	天文15年(1546)に建立、一間社隅木人春日造は、国指定重要文化財。
十 輪 寺	高砂市高砂町横町	弘法大師が唐からの帰途この地に嵯峨天皇の勅命を奉じて地藏尊をまわり、国家を鎮め郷土を守るところとされたのがこのことである。その後、法然上人が讃岐へ流される途中に立ち寄り、寺を復興したことから法然二十五遺跡の一つに数えられている。
時 光 寺	高砂市時光寺町12	建長元年(1249)に時光上人が本尊の阿弥陀如来を海中から引き上げて創建した。文永10年(1273)に今の地に移った。時光寺への3度の参詣は善光寺へ1度の参拝に当たるということから、播磨善光寺ともいう。
善 立 寺	高砂市高砂町	本堂裏の墓地に慶長年間海外貿易に従事したと伝える天竺徳兵衛の墓がある。
高 砂 神 社	高砂市高砂町東宮町	神功皇后がこの地の風景に感ぜられて船を寄せ、大己貴命をまつられたのが始まり。天禄三年に素遠嶋尊、奇稻田姫命を合祀した。又婚儀の席上なくてはならぬ「尉と姥」は、当地が発祥の地で、今も神事として伝承されている。
鹿 嶋 神 社	高砂市阿弥陀町地徳	一願成就の神として有名。一事だけ願事をかなえてくれる神として毎年春ともなれば受験祈願などが多い。又神前で香をたき、お灯明を点じるといふ珍しい習わしがある。
曾根天満宮	高砂市曾根町	菅原道真が九州へ下る時、記念に植えた松が初代“曾根の松”で、この遺跡に建てたのが曾根天満宮、天正6年兵火にかかり18年再興し、慶長14年に拝殿を建立したと伝える。又初代の松の根幹は今も霊松としてまつられている。
浄 土 寺	小野市浄谷町2094	純粋な天竺様式による建造物としては東大寺南門とこの浄土堂かおるだけで国宝に指定されている。その他重要文化財が多い。
浄谷八幡神社	小野市浄谷町	浄土寺境内にあり、浄土寺の鎮守社。拝殿は鎌倉時代の建築、四方吹き抜きの割拝殿で、天竺様と唐様の折衷様式。本殿は室町時代の和様建築で、共に国指定の重文。
五 百 羅 漢 (北条・石仏) (羅漢寺)	加西市北条町北条1293	丈1m前後、表情、姿態に富んだ素朴な454体の石仏群である。「親が見たけりや北条の西の五百羅漢の堂に御座れ」とうたわれ、面貌の異なる石仏の中には必ず親や子供に似た顔かおるといわれている。
酒 見 寺	加西市北条町北条1319	天平17年(745)行基がこの地を訪れ、酒見明神に詣で神託により建立したという。多宝塔(重要文化財)は地方色豊かな古調を持ち、優美な姿と木組みの美しさを見せている。
住 吉 神 社	加西市北条町宮前	養老年間(約1,200年)の創設で、酒見寺の守護神として崇められ社寺同一境内に並んで神宮寺の模範的な形態を示している。毎年4月第1土・日曜の節句まつりには、十数台の屋台が練歩き、龍王の舞が奉納される。

名称	所在地	特 色
古 法 華	加西市西長町	北条鉄道播磨下里駅南西約3キロメートルの山中一帯小古法華とよばれている。この山中にある観音堂内に凝灰岩の切石の表面に半肉彫りで、三尊像を表した白鳳時代の石仏が安置されている。 (国指定重要文化財)
法華山一乗寺	加西市坂本町	白雉元年(650)天竺の高僧法道仙人の開基による天台宗の名刹で、西国第26番札所寺。境内の諸堂は鎌倉、室町のものが多く中でも三重塔は国宝であり山内の天然林の紅葉、桜が見事にマッチしている。
普 光 寺	加西市河内町	白規2年(650)法道仙人開基、播磨西国第17番、加西西国第7番霊場。サクラの名所で、ハイキングに最適。モリアオガエル、ヒメハルゼミの生息地。
佐 保 神 社	加東市社町社777	H代垂仁天皇23年の創立。44代元正天皇養老6年(722)遷座の時、三座相殿にご鎮祭された。平安時代の末から鎌倉初期にかけて加東郡の惣社と称せられた。
木 梨 神 社	加東市社町藤田473	60代醍醐天皇のとき将軍多田満仲公により造営された。
住 吉 神 社	加東市社町下久米67	「続左丞抄住吉神領年紀」によると当地は神功皇后のころ、すでに摂津住吉神社の井領地であった。神領地の因縁上、その分霊を祀ったもの。
東 光 寺	加東市社町上久米129	法道仙人開基。本尊の大日如来坐像は作風から藤原時代のものといわれている。例年2月28日の大日祭は多数の人でにぎわう。
朝 光 寺	加東市社町畑	法道仙人の開基。方7間の堂々たる本堂は細部は和様唐様の折衷様を呈し室町時代初期の建築で国宝に指定。鐘楼は国の重要文化財に指定されている。
住 吉 神 社	加東市社町上鴨川571	本殿は鎌倉時代の正和5年(1316)創建構造形式は三間社流造。国の重要文化財に指定されている。
溝 水 寺	加東市社町平木	西国25番札所。大講堂は725年創建。根本中堂は627年創建。鐘楼など多数の建造物あり。頂上からは瀬戸内海をはじめ淡路島、六甲連山が見え、眺望が豊か。山頂まで自動車道がある。
光 明 寺	加東市滝野町光明寺	標高251m五峰山上にある法道仙人の作と伝えられる千手十一面観音、大師自画像は中国伝来で塔頭大慈院の多宝塔に収められている。
若宮八幡宮	加東市東条町黒谷	国指定重文「若宮八幡宮本殿」は室町時代のすぐれた彫刻技法をみることができる。
極 楽 寺	多可町八千代区中野間	天台宗比叡山延暦寺の末寺で白雉9年法道仙人によって開創されたもので当麻曼陀羅を始め国の重文「六道絵」等掛軸類が多く残されている。
安 海 寺	多可町八千代区中村	西暦584年日本への最初の渡来僧高麗の恵辨法師ゆかりの寺である。本尊の阿弥陀如来像は平安中期のもので、県指定文化財である。
楊 柳 寺	多可町八千代区大和	法道仙人開基と伝える古寺である。ここには、寺宝の木造十一面観音立像(県指定文化財)が安置されている。
天 神 社	多可町中区徳畑	平安の昔、源三位頼政の崇敬があつかったと伝えられる。殿舎はすべて桧皮葺で建築の精巧なこと播州路に比類がなく、千古の歴史を秘めて鎮座する森厳な社である。
金比羅神社	多可町中区鍛冶屋	祭神は鍛冶の祖といわれる天目一命(あめのひとつのみこと)。寛政6年(1794)撰社として讃岐から勧請した金刀比羅宮が今では有名になっている。境内は広く、山あり、流れあり、野営もできる。
法 幢 寺	多可町中区中安田	夢窓国師の開山、足利尊氏の建立と伝えられるこの禅寺は寺格高く霊殿の豪壮、池の造作も絶妙、徳川将軍御朱印の聖地である。
円 満 寺	多可町中区西安田	法道仙人の開基、弘法大師の中興と伝えられ、姫路城主の信望あつく付近一帯の山谷を寺領としている。境内には銀杏の古樹があり授乳の霊徳があると伝えられている。
瑞 光 寺	多可町中区門前	元弘2年赤松則祐の建立、夢窓国師の開山、背後には古城跡、高城山を控え庭園はものしずかで禅風の妙技を遺している。秋は山の紅葉を池に映し清雅である。



名称	所在地	特 色
雲 門 寺	多可町加美区清水	妙心寺派の名刹として古くから近郷にきこえた禅の道場で、日本建築の粋を集めた大伽藍と庭園は有名である。
金 蔵 寺	多可町加美区的場	真言宗密教伝習道場として名高い金蔵寺は幾代を経た杉木立の中に大伽藍を誇っている。人里を遠く離れ、標高 380mの境内は、夏でも衿をただす涼しさで、訪れると俗界とかけはなれた心のやすらぎを与える。
青 玉 神 社	多可町加美区鳥羽	青玉神社、大杉の群生は樹齢共に約1,000年、樹高約50m、根まわり、8m~10m以上にも及び、巨木7本が群生するさまは社と調和して、まさに神秘的感がある。
荒 田 神 社	多可町加美区的場	播州二の宮正一位荒田神社、氏神は少名彦命、木花咲耶姫命、素蓋鳴命を奉祀する。境内に八幡、春日、秋葉、愛宕、天満、蛭子、大神宮の七社を奉祀する小宮あり。
楊 柳 寺	多可町八千代区大和	法道仙人開基と伝える古寺である。ここには、寺宝の木造十一面観音立像（県指定文化財）が安置されている。
天 満 神 社	稲美町国安	白雉4年（653）王子権現をまつり、のち菅原道真が立寄ったので合祀して天満神社としたという。10月10日の祭にはみこしを近くの大池に沈める行事がある。
高 蘭 寺 こうおんじ	稲美町野寺851	白雉年間、法道仙人の開基という。本尊は千手平眼観世音菩薩で鎌倉時代の作と伝えられる。播磨西国24番に属す。境内に八十八ヶ所霊場が設けられている。2月9日・10日には鬼追式が行われる。
阿閉神社 あえ	播磨町本荘4丁目	天平時代に勧請されたものと思われる住吉の4神をまつる社で、本殿は元禄14年（1700）の再建といわれる。秋祭りにはふとん屋台が出てにぎわう。
蓮 花 寺	播磨町北本荘7丁目	応仁年間0467~1469）の創立。山門を入った右側に、ジョセフ彦が建てた裏に英文が刻まれている親の墓かおる彦の墓は東京青山墓地にある。

## 西播磨

名称	所在地	特 色
慶 雲 寺	姫路市慶雲寺前町	嘉吉3年（1443）の創建、天正年間、南室禅師が姫路城主池田輝政の帰依を得て再建した。境内にお夏清十郎の比翼塚がある。
松原八幡神社	姫路市白浜町甲399	天平宝宇7年（763）の創建、宇佐八幡宮の分霊を迎えてまつたと伝える。赤松政則が社殿を再建して竣工、10,14,15日の例祭は妻鹿のけんか祭として有名。
名古屋山霊園	姫路市山畑新田	高さ38mの仏舎利塔を中心に整備された公園墓地。仏舎利塔の内陣はインドのネール首相から贈られた仏舎利を納めた厨子を中心に、聖徳太子をはじめ各宗の開祖、日本7聖人の像が安置しており、極彩色にかざられている。
広 峯 神 社	姫路市広峰	天平5年、吉備真備の創建とされるが神功皇后征討の際既に鎮座のあった古社で、京都八坂の祇園社は当社から勧請したといわれ、その本宮である。昔から特に農家の信仰が厚い。
竜 門 寺	姫路市網子区浜田	延宝2年（1674）藩主京極高豊の帰依により、盤珪禅師を迎え、禅師の生地に再興した禅寺。4月3、4日に大茶盛が開かれる。
書写山円教寺	姫路市書写	康保3年性空上人の開基。天台宗の巨刹で、大講堂、鐘楼、金剛堂をはじめとする国、県指定の重要文化財が多い姫路藩主、本多、松平、榊原家の墓所もある。西国巡礼33カ所第27番札所。
魚 吹 八 幡 うすき	姫路市網子区宮内町	津の宮の名で親しまれる。応神天皇、神功皇后、玉依比売命をまつり、仁徳帝7年の創建。現在の社殿は正保元年（1645）再建のもの。9月25日に提灯祭が行われる。

名称	所在地	特 色
随願寺 (増位山)	姫路市白国	天平7年(735)僧行基が開いた古寺。天正元年戦火で焼失。寛文8年(1668)姫路城主榊原忠次が建立。重要文化財は木造毘沙門天立像。境内に榊原忠次、政邦の墓がおる。
家島神社	姫路市家島町宮	家島本島の東元端にある天神社。境内にはウバメガシ、ヤマモモなどの常緑広葉樹林に包まれる。7月24～25日の船渡御祭にはダンジリ船が出て各島を巡り、海上獅子舞を奉納する。
賀野神社 かや	姫路市夢前町坂根	言彦山の岩峰をご神体とする。農耕牧畜の神として遠近から参詣者が多い。ユースホステルもあり、雪彦登山の基地になっている。山上の拝殿へ林道がついている。
弥勒寺 みろく	姫路市夢前町小坪	長保2年性空上人が草庵を建てたのが始まりで現本堂は1380年赤松義則が諸堂を再建した時のもので国の重要文化財の指定を受けている。附近には国の天然記念物モリアオガエルが生息している。
八葉寺	姫路市香寺町相坂	この寺は、播磨西国三番札所。天平8年、行基上人の開基と伝えられ、性空上人と親交のあった寂心が堂を建立したのが始まりとされている。
蛇穴神社	姫路市香寺町広瀬	里人が重病にかかり困った末、神信心により病を治そうと努めた神社であり、参詣祈願すると治ると信じられており、特に皮膚病、痔に靈験あらたかといわれている。
常福寺	姫路市香寺町須加院	黄ばく宗万福寺の末で本尊は聖観音である。経瓦、五輪卒塔婆、如来座像、地藏菩薩像、天竺から渡来したと言う白磁の聖観音像かおり何れも得がたい名宝である。
加茂神社	姫路市安富町安志	老杉に包まれた参道の奥に鎮まる社、享保8年(1723)9月、藩主小笠原氏が社殿を造営した。参道から左に見える丘陵は梅林となり、右下に弁天をまつる浮見堂のある弁天池がおる。
求福寺	相生市矢野町三濃山	求福寺は三濃山上にあり、本尊の千手観音菩薩と聖徳太子、弘法大師の木像が秘仏として祀られている。
龍野神社	たつの市龍野町	祭神は脇坂家の始祖、甚内安治。11代安薫は外様大名でただひとり老中になった傑物。12代安宅も寺社奉行となり龍野の繁栄を招いた。
野見宿禰神社	たつの市龍野町台山	角力の元祖野見宿禰をまつる〇川石を運んで立てたハニワがあり、角力の神様として有名。
宝林寺	たつの市揖保町門前	禅宗大徳寺派に属し、京都紫野大徳寺の開祖大燈国師誕生の地に当り、寺内に国師誕生の井戸や遺愛の手水鉢、夜泣きの鉢などが残されている。
宮内天満神社	たつの市新宮町宮内	本殿の室町後期の建築で、一間流造り屋根は珍しい豎板葺、またご神体の菅公の木像は、わずかに開いた唇から歯並びが見えるので牙天神の名かおり、本殿と共に国指定の重要文化財。
圓融寺	たつの市御津町岩見	第45代聖武天皇の勅願により、天平11年行基によって開創された。近年涙観音で有名である。播磨西国8番霊場、揖保西国第10番霊場、播磨四国第109番霊場になっている。
王子神社	たつの市御津町中島	昔から中島の権現さんと親しまれている神社で、病氣治癒を祈願して参詣者が多い。
浄運寺	たつの市御津町室津	法然上人の25番霊場である浄運寺は、約800年前に創立された。この寺には友君、室君の墓、悲恋のヒロインお夏の木像等がおる。
見性寺	たつの市御津町室津	室君が建てた五ヶ精舎で現存する唯一の寺である。寺宝は毘沙門天立像で平安朝藤原時代のもとして国重要文化財に指定されている。
賀茂神社	たつの市御津町室津	室津の港につきだした岬の上の明神の森にある。賀茂神社は平安時代に室津が京都の上賀茂神社の荘園になったときの分社として創建されたという。
大石神社	赤穂市上仮屋	忠臣蔵で有名な大石内蔵助良雄をはじめ47義士と中折の烈士菅野三平をまつっている。大石庭園、義土木像館、義土宝物殿がある。
花岳寺	赤穂市加里屋	忠臣蔵で有名な、浅野家、大石家の菩提寺になっており、赤穂義士47人の墓がおる。義土木像館、義土宝物館、大高源五句碑等がある。

名称	所在地	特 色
大 避 神 社 おおさけ	赤穂市坂越	皇極天皇の時代に秦川勝が蘇我氏の乱を避けてこの地方一帯を開発したといわれ、秦川勝と、秦氏中興の祖酒公をまつ。10月第2日曜の秋祭りは海上渡御の船祭りとして有名。
伊 和 神 社	穴粟市一宮町須行名	播磨一宮といわれ、杉、桧の大樹が屋なお暗く繁る53,000㎡の深厳な境内に祀る祭神は大己貴神で旅行者の安全守護、福の神、縁結びの神として有名。
御 形 神 社	穴粟市一宮町森添字宮山	祭神は葦原志許男神。本殿は大永7年(1527)室町時代の再建で、国指定の重文。
大森神社神楽殿 (農村歌舞伎舞台)	穴粟市千種町河呂	間口13.3m、奥行9mの規模は県下江戸末期に建てられたといわれており廻り舞台の底部は回転半径に合わせた木の車を組み込み容易に回転する工夫がしてある。この構造は全国に類を見ず学術的に貴重なものである。
西 方 寺	穴粟市千種町室	朱雀天皇の御世に創立されたと伝えられ、たび重なる災害で本殿は文政8年(1825)のもので境内の宝篋印塔は町内では最も立派である。
法 楽 寺 (別名犬寺)	神河町神崎町中村	大化年間法道仙人の開基と伝えられ、その昔福山(神崎町福本)の豪族牧夫長者が自分の命を救った黒、白の2匹の愛犬の菩提のため建立したという伝説があり播州大寺という通称で親しまれている。播磨西国第15番札所
日 吉 神 社	神河町大河内町比延	大国主命と少彦名命の神様が社の山に居て国を治められたという言い伝えでここに社を建て、この2人の神様を祀った。
笠 形 神 社	市川町上牛尾	1400年前、法道仙人が創建したと伝えられ、現在も建物の一部が残存し、貴重な文化財が内蔵されている。境内には数百年を経た杉や桧が生い茂り、かつて姫路城の心柱はこの笠形神社の境内から提出されたものである。
笠 形 寺	市川町上牛尾	笠形山麓にあり、1700余年の歴史をもつ天台宗の古寺である。兵火や、明治の大火で、本堂と蔵王堂を残し殆んど焼失した。しかし、僧兵、比丘尼屋敷跡をはじめ全山に散在する多くの宮跡堂跡は往時の隆盛を偲ばせる。
神 積 寺	福崎町東田原1891	天台宗叡山派に属し、正暦2年(991)慶芳上人によって開基された。一条、三条両天皇のあつい帰依をうけたと伝えている。延慶2年(1309)の火災で荒廃したが、その後復興され、播磨六山の一として栄えた。本尊は、国指定重要文化財の薬師如来座像である。
日 光 寺	福崎町大貫2925	大化元年、法道仙人の開基で、真言宗・御室派の中本山である。天武天皇の勅願寺、小松宮の隠居所として栄えた。又海拔412mの日光寺山頂からのながめはすばらしく、姫路平野、播磨臨海工業地帯、家島群島、遠くは六甲山系を一望におさめられる。
岩尾神社と 石造鳥居	福崎町東田原1935-1	大国主命他2神体を祭神とし慶芳上人が神積寺を開基する際、本神社へ文珠像を合わせ祀られている。現存する鳥居は総高322cm石英粗面質の凝灰岩で沓石を用いていない、高さの割合に幅が広く、柱の内転もないのは古祠をのこしたっくりで慶長16年の銘がある。
金 剛 城 寺	福崎町田口236	推古天皇の頃、三輪宗の高麗の僧惠濯法師により慈岡寺として開基され慶長6年寺号を七種山金剛城寺に改称された。真言宗の名刹であり、県下八景、県観光百選に選ばれている。新西国三十番、播磨西国十二番の札所として現在も繁栄している。
斑 鳩 寺	太子町鵬	聖徳太子ゆかりの地で推古天皇が太子に360町歩を賜ったこの地に斑鳩寺が建立された。重要文化財に指定された仏像、絵画も多数ある。
万 勝 院	上郡町大富字富満	富満高原、一海拔370mの山上にある。行基の開基と伝える。ポタン寺として知られ、また、山菜の精進料理が有名高原からは中国山脈方面の展望がひらける。
高雄山福円寺	佐用町上月町中山518	高雄山とも呼ばれ、開祖日羅上人の塚や、福原城主則尚の冢あり、佐用郡で最も歴史の古い寺である。境内に散在する明星石(金切石)は、雷よけ安産、幸福の石といわれる。

名称	所在地	特 色
船越山瑠璃寺	佐用町南光町船越	聖武天皇の勅願により神亀5年、行基が悪疫を鎮めるため、堂塔12、末寺12を加えて船越山瑠璃寺を建立、本坊を南光坊という。杉の大木が茂る樹林の中に多くの堂塔伽藍が残る名刹。
光 福 寺	佐用町南光町漆野	桃谷山光福寺は播磨一本堂と知られている。千種町にあったケヤキの大木一本で建てられたと伝えられており、境内には播磨一という枝垂れ桜がおる。
高 蔵 寺	佐用町三日月町下本郷	播磨西国十番札所。真言宗で奈良時代725年に行基が勅願によって建立したと伝えられる。三日月藩主森家の菩提寺である。

## 但 馬

名称	所在地	特 色
菓祖中嶋神社	豊岡市三宅	菓子の開祖、田道間守命を祀り、全国菓子業者の崇敬がおる。m道間守命は垂仁天皇の命を受け、海外から（ときじくのかぐのこのみ＝今の橘）を持ち帰ったと伝えられる。本殿は室町中期の造りで、国指定の重要文化財。
絹 巻 神 社	豊岡市気比	但馬五社明神の一つ。背後の絹巻山は玄武岩の露頭かおり、柱状節理の形が絹を巻いたように見えるので絹巻岩の名かおる。また一帯の暖地性原生林は県の天然記念物であり、ヒメハルゼミの生息地として知られる。
温 泉 寺	豊岡市城崎町湯島	建築は鎌倉時代の手法を示し、城崎の湯を開かれた道智上人によって開創された。重要文化財に指定された仏像等多数ある。
四 所 神 社	豊岡市城崎町湯島	城崎温泉の氏神、和銅元年（708）の鎮座。出石明神の眷属神、湯山明神をまつる。10月15日に行われる秋祭り（だんじり祭）は上区、下区のだんじりがもみあう、けんらんとした祭。
円 通 寺	豊岡市竹野町須谷	絹不淡月庵宗光像（県文化財）くの打掛かおる。
大 乗 寺 (応挙寺)	香美町香住町森	天平17年（西暦745年）開基、行基によって開かれた寺で、亀居山と号し高野山真言宗に属する。本尊の聖観世音菩薩はもとより、168点の国指定による重要文化財があり、特に円山応挙とその一門による襖絵で有名。
帝 釈 寺 たいしゃく	香美町香住町下浜	天武天皇丙子歳（西暦676年）に下浜の枕ヶ瀬に漂着した一体の仏像を安置するため草庵を建立したのが始めとされ、喜見山と号し、高野山真言宗に属する。この寺の寺宝である聖観世音菩薩は、国の重要文化財。
三川権現社	香美町香住町三川	三川山のふもとにあるこの権現社は、675年役の行者神変大菩薩によって開創された修験者の古刹として、日本三大権現の一つに数えられている。毎年5月3日の例祭には、盛大な護摩供養が行われる。
隆 国 寺	豊岡市日高町荒川	山名宗全の四天王の一人、垣谷隆国の菩提寺として、16世紀に建立され、1624年、現在の地に移転された。岸連山一派による襖絵（町指定文化財）豪快な造りの山門、1000株のボタン園などは有名。
長 楽 寺	豊岡市日高町上石（あげし）	長い石段を登ると山の中腹あたり、見晴らしのよいところに建てられている八重の花弁が一枚ずつ散るといふ、樹齢約500年の椿（県指定天然記念物）、千利休専属釜師作の茶湯釜、薬師堂などかおり、ハイキングにもよい。
宗 鏡 寺 すきょう	豊岡市出石町東条	俗に沢庵寺ともいい、もと山名氏の菩提寺で宮内にあったが移城とともに移され、山名氏滅亡後荒廃していたのを元和2年（1616）に沢庵和尚が中興され和尚手づくりの名園（県指定文化財等）かおる。
出 石 神 社	豊岡市出石町宮内	創立年代は不明、貞観元年（859）にはすでに但馬第一の大社として三代実録にその名が見られる。（旧国幣中社）

名称	所在地	特 色
出石稲荷	豊岡市出石町出石	出石城内にある。旧藩時代、初午の3日間だけ領内の人々に参詣の許しがたため、出石初午祭は但馬一のにぎわいをみせた。現在は3月の第3日曜日の前後3日間。
見性寺	豊岡市出石町松枝	江戸時代の交通は主に川を用い、出石川は特に日本海側よりの交通河川であるため、川よりの敵を監視するため寺院を兼ねた物見台を備えたものが見性寺であり、隅櫓に似た鐘櫓は、城下町の特徴である。
経王寺	豊岡市出石町下谷	旧京街道を上がっていくと右手に白亜塀の一見七城の様な建物が目につく。それは当時京街道の護りとして造られた寺である。
総持寺	豊岡市出石町宮内	真言宗の古刹で天正年間に創立されたが、永平元年(1504)に兵火に焼亡し、大永2年(1522)復興、山名氏の崇敬をうけた。
日出神社	豊岡市但東町畑山	室町時代の建築と推測され、本殿はさや堂に入った三間社流れ造りでその時代の特色を備え、手狭、蛙股などに注目すべきものがある。昭和45年国の重要文化財の指定を受けた。
今滝寺 こんりゅう	養父市八鹿町今滝寺	八木氏の菩提寺であり当時の本尊聖観音像は代々城主の持念仏として尊崇された。山門には仁王像があり往時をしのばせてくれる。
日光院	養父市八鹿町石原	日光院は日光坊慶重が開創したと伝えられる古刹で近世まで日光院帝釈寺と称し妙見山に名草神社とともにあった。中世、武家の信仰が厚く諸侯から寄せられた古文書が多く保存されている。
名草神社	養父市八鹿町妙見	敏達天皇の創建で当時は養父司高野直天幡彦や人々が悪疫五穀の病害に苦しんでいるのを隣れんで祖神の名草彦の神を祈願したのがこの神社である。
浅間寺	養父市八鹿町浅間	浅間寺は奈良時代に聖武天皇の勅願によって高僧行基が開創したと伝えられる。薬師如来座像は桧材を用い高さ110cmで但馬における平安時代の代表作である。
満福寺	養父市養父町十二所	今から約1200年前に僧行基によって開かれた真言宗の名刹。
養父神社	養父市養父町養父市場	但馬5社の一つに数えられ、但馬で最も古い歴史と社格を誇る。
大明寺	朝来市生野町黒川	正平22年に人月庵宗光師の開山による臨済宗の名刹で、沢庵禅師も滞在、勧化したことがある。雨乞いの仏、子授けのおこもり堂かおり霊験あらたかといわれている。
延応寺	朝来市生野町銀谷	生野義拳決行の策謀をした場所である。樹齢1000年の大棟かおり、又願いごとのよく叶えられる日限地蔵がある。
金蔵寺	朝来市生野町口銀谷 くちがなや	浄土真宗本願寺派に属し、国の重要文化財の銅鐘がある。
赤瀧神社	朝来市和田山町枚田	本殿は三間社流れ造り、こけら葺で、蛙股、懸魚、妻飾など室町時代初期の建築様式を残している。
当勝神社 まさかつ	朝来市山東町粟鹿	海路安全五穀豊じょう漁業の神として尊信が篤い。又隨身門は江戸中末期の建立と推定され比較的当初のまま保存されているので当時のこの地方における華麗な建築装飾手法を知るうえにより参考となる遺構である。
粟鹿神社 あわが	朝来市山東町粟鹿	但周一の宮又二の宮と言われ天平9年の但馬国正税帳にもその名が見える由緒深い古社。神社の文献等焼失して建立年代その他を明確にすることはできない、当地方における数少ない遺構の一つとして貴重である。
楽音寺	朝来市山東町楽音寺	ウツギノヒメハナバチの群生地。
青倉神社	朝来市朝来町川上	樹齢数百年の杉林の参道を登り、海拔約650mの参籠舎につく、神社は12m余の岩壁を背に祀られ、水清く春秋の山美しく神霊あらたかである。神社の後方の100m余の岩壁より湧出する水は眼病に効果があるといわれる。

名称	所在地	特 色
鷲原寺 わしはら	朝来市朝来町上岩津	観音堂に安置されている木彫彩色の11面千手観音像はすばらしい。鎌倉時代作と言われている。観音堂の建築そのものもすばらしい。毎月18日開扉日。
大日寺	朝来市朝来町石田	大日寺には、大日・阿闍、宝生・弥陀・釈迦の五智如来が祭られている。享保14年頃の改作といわれ、中尊1.7m以下、これに因んだ大仏で、畜産の守護とされている。
龍泉寺	香美町美方町秋岡	曹洞宗龍泉寺は山名村岡藩主ゆかりの寺として代々その庇護を得、山名豊国自彫の僧形豊国入道座木像や位牌がまつられるなど村岡藩主ゆかりの品々が数多く保存されている。
黒野神社	香美町村岡町村岡	村岡藩主山名公の崇敬を受けてきた式内社。国指定重要文化財の釈迦十六善神像図、貴徳面と言われる古面や、山名公ゆかりの馬具一式、槍等の行列道具など歴史上重要なものが保存されている。
法雲寺	香美町村岡町村岡	村岡藩主山名公の菩提寺。山名公が將軍家から拝領した膳具一式や三代矩豊公の写経、村岡藩当時の遺品など山名公ゆかりの資料が多数保存展示されている。
光明寺	香美町美方町平野	真言宗光明寺は夢窓国師の開山と伝えられ、羽柴軍の戦火にあい焼失後約 250年前に再興される。薬師如来本尊など重文級の仏像仏画が数多く、和牛の里に相應しく牛の守り神として信仰を集めている。
多他神社	香美町美方町忠宮	多他神社は小代庄一の宮として由緒ある延喜式内社である。境内には明治19年再建された神殿造の本殿を始め幣殿拝殿、龍堂、社務所が銀杏の大樹の下に配置され神々しい社である。
小代神社	香美町美方町秋岡	境内には小代杉の母樹の巨木が天を突き抜けるように真っすぐに伸び、又境内を被う山苔はまさに緑のジュウタンであり神秘さを深めている。又境内には天然記念物モリアオガエルが生息、している。
宇都野神社	新温泉町浜坂町浜坂	祭神は素戔鳴命、稲田比売命、大国主命3神。社叢は暖帯性植物原生林で、県指定天然記念物。7月17日～19日に行われる川下祭が有名。
楞嚴寺 りょうごん	新温泉町浜坂町田井	杉の大木並木におおわれた古道の中に本堂かおり、古文書を多く保存し、なかでも夢窓国師像は禅宗美術としてすぐれている。
相應峰寺 そうおうぶ	新温泉町浜坂町清富	山号は観音山、重要文化財の木造十一面観音立像がまつられており、4月18日が例祭で御開帳がある。本尊の高さは、2.18メートルで、明治34年8月に旧国宝（重文）に指定された。
安泰寺	新温泉町浜坂町池が平	曹洞宗、修業道場杉木立を登りつめると一面にあじさいの花が広がる。
八幡神社	新温泉町湯	湯村温泉の高台にあり、応神天皇、息長足姫命（お絃がた6しひめのみこと）をまつり、およそ900年前の創建といわれ、春は桜の名所で、湯村温泉浴客の散歩に絶好の地。境内に千年釜、日本三古塔の一つ也、いぼ神様と尊崇の五輪の石塔がある。
正福寺	新温泉町湯	慈覚大師が湯村温泉開発の際（嘉祥元年）創建させたと伝えられ、古刹をしのぼせる立像不動明王が祀られている。熊谷直義の故事、遺品なども保存されており、境内には天然記念物正福寺桜、お葉付きいちようがある。
藁師堂	新温泉町湯	貞観17年に、湯村温泉開発の祖慈覚大師の徳をたたえて堂寺を建て、薬師如来と共に同大師の尊像を祀っている。湯村八景、天井絵が描かれており、へん額「医王殿」は天台第103代の無品覚雲の書。

名称	所在地	特 色
善住寺	新温泉町熊谷	高野山真言宗。長保元年覚増上人が地方行脚の際開祖したもの。阿弥陀堂には重要文化財指定の木造阿弥陀如来像、脇立仏として西国三十三体観音、薬師如来二天王も祀られる。三面回廊、釈迦や十六羅漢が描かれている。
正楽寺 しょうらく	新温泉町前	快酒法印開山、天台宗大杉山正楽寺。宝物として在銘応永年の鰐口かおり県指定の重要文化財。その他に近寺の天台宗に見られない秀れた作品といわれている釈迦掛図や経文が保管されている。
泰雲寺	新温泉町竹田	京都嵯峨の臨済宗天竜寺に属する禅刹。境内に樹高約15m、樹齢250年以上、目通幹廻り3.8m見事な枝垂桜を見せ県指定天然記念物「泰雲寺しだれ桜」がある。
巖山寺	新温泉町飯野	天台宗延暦寺派に属する寺院。人間の生より死に至る一代を無言の中に表しているといわれる仁王門が在り当時、諸仏の守護神として仁王尊が祀られたもの。寺宝は、慈覚大師自作の仏像と御正筆「巖山寺」の額など。

## 丹 波

名称	所在地	特 色
八幡神社	丹波市柏原町柏原	後一条天皇の万寿元年造営、後、焼失し天正10年に豊臣秀吉が再建したもので、石清水八幡の別宮、境内の厄除神社例祭（毎年2月17日～18日）は日本最古の厄除祭といわれ、遠近の参詣者で賑わう。
三重塔	丹波市柏原町柏原	応仁2年（1467）僧秀慶が創建し、天正7年（157+）兵火で焼失、のち僧祐照が再建したが再び焼失し、文化10年（1813）に現在のものが完成した。
新井神社	丹波市柏原町大新屋	比叡山の守護神近江坂本の山王日枝神社の分霊を祀った延喜式にもある古い神社で江戸中期の建築と思われる。
達身寺と仏像 たっしんじ	丹波市氷上町清住	丹波の法隆寺と呼ばれ、創立は8世紀中頃とみられている。ここには平安、鎌倉時代の仏像が80余体も安置されており、このうち12体は国重要文化財、34体が県指定文化財。この寺に多くの仏像がおることについては謎とされている。
高山寺	丹波市氷上町常楽	約1200年前に法道仙人が開き、昭和33年に現在地に移築された。林の中に朱塗の仁王門かおり、その奥に庫裏や毘沙門堂がある。現在は100名程の研修会や会合も可能。季節になると参道の桜が見事に咲きほこる。
円通寺	丹波市氷上町南御油	約600年前、足利義満が建立、明智光秀の丹波攻めの際にも難をのがれた。江戸時代には末寺が200にも及んだ曹洞宗の中本山である。広い境内のモミジが美しく、錬成道場としても有名である。
神野神社	丹波市氷上町北御油	社殿は一間社流れ造りの素朴な建物であるが室町中期の様式を示し丹波では数少ない古い神社建築物で県の文化財に指定されている。もとは付近数ヶ部落の惣社で御油庄の人々によって祀られていた。
内尾神社	丹波市氷上町三原	鳥居から社殿まで大きな杉並木が立ちホトトギスも鳴く静寂境である。拝殿前の二本の大杉は44mあり町指定の天然記念物となっている。中世から葛野庄18力村の総社として栄えた。
●部神社 いそべ (山辺に石)	丹波市氷上町石生	延喜式に登載された古い神社で社殿は室町時代末の面影が残る建造物である。境内社の春日社と熊野社は室町末の建築様式を残している。本殿は神前結婚式場としても利用されている。
高源寺	丹波市青垣町桧倉 ひのくら	三たん一のもみじの名所で天目楓として唐から伝来した特徴のある小葉が、全境内を紅葉した様は全く壮観である。又、三重塔や方丈、仏堂のほか本堂には重文「中峰国師の画像」かおり又境内には精進料理の「丹丘荘」（だんしゅうそう）かおり住職が丹精こめてもてなしをする。
常龍寺	丹波市青垣町大名草	ぼけ封じの寺と言われている。

名称	所在地	特 色
興 禅 寺	丹波市春日町黒井	天正7年黒井城は明智光秀のため落城し城下は光秀の甥齊藤内蔵介利三が賜り興禅寺を陣屋と定めた。この陣屋で利蔵の娘お福が生まれ後の徳川三代將軍家光公の乳母として名高い春日の局となったといわれる。
兵 主 神 社	丹波市春日町黒井	兵主神社の由緒は、明らかではないが鎮座は千年以前といわれる。天正年間の兵火によって残っている記録も少ないが、近衛閑白家から代々崇敬されて現在残っている御物も、同家にちなんだものが多い。
船 城 神 社	丹波市春日町歌道谷 うとうだに	鎮座の年代は、明らかではないが、皇室、宮家、領主等の崇敬は、すこぶる厚かったようである。本殿、神楽殿、神輿會、宝庫かおり唐八晝、六歌仙、三夕等の和歌をはじめ宝物が多い。
慧 日 寺 えにちじ	丹波市山南町太田	管領細川頼之の命で建立された臨済宗妙心寺派の中本山で、経蔵、鐘楼等格式を保つ建造物で有名である。又、夢窓国師画像他文化財も多い。
岡本薬師堂	丹波市山南町金屋	岡本北側の山麓にあり、本尊仏薬師瑠璃光如来座像は優美端麗な藤原時代の作で、国の重要文化財に指定されている。又、参道の、さとのり道や静閑な境内は訪れる人の心をなごませてくれる。
岩 滝 寺	丹波市氷上町香良6	岩滝溪谷の入口にあり、溪谷一帯を管理している。溪谷には香良の滝、浅山不動などかおる幽境。1言仰と療養を兼ねた香良病院がある。
首切地藏尊	丹波市山南町谷川	首から上の願い事は何でも叶えてくれるという靈験あらたかなお地藏さんとしてテレビでも紹介された。病気回復のほか近年では特に入試合格必勝祈願が行われるようになり、シーズンには大いに賑わいをみせる。
高 座 神 社	丹波市山南町谷川	当社は、丹波の国造の創立と伝え、祭神はその祖神である高倉下命と関係深い4柱の神々を配祀する式内社である。本殿は県指定文化財となっている。
円應教本部	丹波市山南町村森	大正8年に立教された宗教法人で現在全国に30万人余の信者を有している。本殿には6200人を収容できる県下最大級のホールがあり、正月や年数回行われる祭典日、毎月の例祭には多数の信者で賑わう。
常 勝 寺	丹波市山南町谷川	法道仙人の開基といわれる郡内屈指の名刹で、境内は広く、位置高く、寺名にふさわしく四季の風景に勝れている本尊仏の干手観世音菩薩立像と薬師瑠璃光如来座像はともに国の重要文化財に指定されている。
石 龕 寺 せきがん	丹波市山南町岩屋	聖徳太子の開創といわれ、足利尊氏父子の敬信を得た寺の一つとして有名。(太平記第29巻)又、南大門の金剛力士像は、奈良東大寺のものに次ぐ秀作として有名で国の重要文化財に指定されている。
小新屋観音	丹波市山南町小新屋	岩尾城主和田日向守の建立、手足の不自由な人に靈験あらたかなみ仏として各地より参拝者が多く、干手観音像は町文化財、毎月17日は縁日で賑わうが夏は閑静な避暑地でもある。
清 蘭 寺 せいおん	丹波市市島町中竹田字 寺内	本尊は薬師如来。山門は赤門と呼び、寛永年間、左甚五郎の建築と伝える。薬師堂前の石灯籠は貞和3年(1349)の刻銘がある。鎌倉時代の秀品。県指定重要文化財。
神 池 寺	丹波市市島町多利	妙高山にある。養老2年法道仙人の開基で、干手観音を安置する寺宝は阿弥陀如来立像(県重文)。石造宝腕印塔(県重文)がある。新講堂「山の家神池寺会館」かおり、一般の利用ができる。
白 毫 寺 びやくごう	丹波市市島町白毫寺	五大山麓にある閑静な古寺、境内の築庭に風趣かおり、錦鯉の群れる心字池には太鼓橋が架かり奇観を呈している。
恵比須神社	丹波市市島町市島	市島駅裏の高台にあり1月10日が例祭で“えべっさん、”と呼ばれて親しまれ宵宮から近郷の参拝客で賑わう。近くにいちじま児童公園福祉センターいちじま荘かおる。
住 吉 神 社	丹波篠山市篠山町川原	約900年前、住吉大社の分霊として鎮座され、上筒男命、中筒男命、底筒男命、神功皇后が祭神である。神社内には庭園、住之江の庭(枯山水)がある。



名称	所在地	特 色
春日神社能楽堂	丹波篠山市篠山町黒岡	文久元年（1861）篠山城主寄進によるもので県の重文である。1月1日午前零時の「翁」にはじまり春は春日能、秋は丹波夜能が催され更に神社の祭礼かおる10月17日には狂言が奉納される。
波々伯部神社 ほうかべ	丹波篠山市篠山町日置 波々伯部	京都祇園神社の荘園、波々伯部のために勧請された神社。丹波の祇園さんと呼んでいる。8月4・5日に行われる例祭のあとで原始的な操り人形が演じられる。人形12体は県指定民俗文化財
西 光 寺	丹波篠山市篠山町畑市	木造薬師如来坐像と脇侍の四天王のうち、木造持国天、増長天、多聞天立像の3体は国指定の重要文化財、収蔵庫に安置されている。境内の△口の木は高さ27m。県下最大の△口で、町の天然記念物。
磯宮八幡神社	丹波篠山市篠山町日置	承平3年（933）京都石清水八幡から勧請した、後川・曾地両村の総社。護摩堂に安置する木造持国天立像と、多聞天立像は藤原時代の秀作で国指定重要文化財。境内のハダカガヤは国の天然記念物。
櫛石窓神社 くしいわまど	丹波篠山市篠山町福井	当神社は大宮比売、櫛石窓、豊岩窓の三体の神像が重文に指定、延喜名社として有名である。
熊野新宮神社	丹波篠山市篠山町二之 坪	武運長久の祈願多く戦時中ではもとより現在もその崇敬は厚い。
宮田天満神社	丹波篠山市西紀町宮田	宮田は中世から荘園市場のあった所ですすでに鎌倉時代から市が開かれておりこの地の天満神社にえびす神が祀られ1月10日のえびす祭は今もにぎわう。又、境内の五葉の松は樹齢700年以上で、丹波の名木といわれている。
川内 多々奴比神社 たためひ	丹波篠山市西紀町下板 井	松の老木のある糠塚の上に鳥居かおり塚を削って道がついていて並木道が境内へ続いており、式内社で、もと神宮寺の蓮華寺があった。古代丹波から奉獻する大嘗会の楯を造った楯縫部がその祖神を祀った神社だといわれる。
大 国 寺	丹波篠山市丹南町株間 奥	大化年間(645～649)空体仙人が開いたと伝えられるこの寺の大日如来2体、阿弥陀如来1体、持国天1体、増長天1体は、国指定重要文化財である。
竜 蔵 寺	丹波篠山市丹南町真南 条上	閑静な環境にあるこの寺は、春は桜、夏はキャンプ、秋は紅葉などで美しい。
文 保 寺	丹波篠山市丹南町味間 南	観明院、大勝院、真如院の3カ寺で、境内は広く、本堂の脇を流れる谷川は水も透き通り、さわがにもたくさんいて参拝者をなくさめる。
宇 土 観 音 (弘誓寺)	丹波篠山市丹南町宇土	境内は広く、三重の多宝塔、平和堂、延命地藏尊、青年道場等があり、毎月17日の例祭には大勢の信者でにぎわう。
住 吉 神 社	丹波篠山市今田町上小 野原	摂津住吉大社から、その社額である小野原荘の総社として勧請された社。10月4日の例祭音宮で行われる「蛙おどり」は田楽の一種と考えられ、多紀郡の奇祭の一つ。

## 淡 路

名称	所在地	特 色
先山千光寺 (十三仏霊場)	洲本市上内膳	先山は洲本の西北、淡路島のほぼ中央にそびえ淡路富士と親しまれている信仰の山。山頂には淡路巡礼の第一番札所千光寺がある。山上からは南淡路一帯を眼下におさめ小豆島、四国を望む景観は雄大である。
巖 島 神 社	洲本市本町4丁目1	市杵島姫命をまつるこの神社は、海上安全・商売繁盛・縁結びの神として信仰を集めている。旧暦10月中の亥の日を中心に3日間おこなわれる弁天祭が有名。
浄 土 寺	洲本市五色町都志	菅原道真公示筑紫へ向かう際、都志浦へ上陸、この寺に入り十一面観音像を自刻して祭ったのが本尊であると伝えられている。境内の入口には花岡岩で造られた総高292cmの堂々たる宝置印塔（県重文）がある。

名称	所在地	特 色
淡路島七福神 福祿寿霊場 長 林 寺	洲本市五色町都志万才	淡路島七福神の一つとして、福祿寿が祀られ参拝者が跡を絶だない。行基が天平9年(737)に創建した寺で延喜元年(901)には菅原道真がこの寺に参詣している。江戸末期の豪商高田屋嘉兵衛の菩提寺である。つかい檀尻でも有名。
河 上 神 社	洲本市五色町鮎原南谷	本殿は河上大神を奉祀し、式内13社の一つとして1000余年の星霜を経た古社後に菅原道真公を祀って天満宮ともいう。境内には道真公お手植といわれるいぶきの老木かおり、菅公ゆかりの遺跡も数多くみられる。
鳥飼八幡宮	洲本市五色町鳥飼中南	京都の石清水八幡宮の社領である鳥飼荘に別宮として奉祀された神社である。
三 宝 院 (十三仏霊場)	洲本市五色町堺	十三仏霊場第8番、観世音菩薩霊場。
八 幡 寺 やはたじ (十三仏霊場)	淡路市津名町志筑 しづき	当寺は、津名町志筑地区の氏神、志筑八幡宮の別当寺として栄え、十三仏の結願所第13番霊場で、虚空蔵菩薩を祀っている。境内には交通受難者供養の地藏尊や、四国、西国の霊場供養塔、鳥獣観音菩薩が祀られている。
淡路島七福神 寿老人霊場 宝 生 寺 ほうしよう	淡路市津名町里	行基菩薩の霊場で、淡路島七福神の寿老人霊場として名高く、唐より請来した身の丈五寸の香木尊像である。左手に桃、右手に宝杖を持ち無病長寿の祈願寺として有名。境内に長寿橋かおり渡ると十年長生きするという。
淡路島七福神 大黒天霊場 八 淨 寺 はちじよう	淡路市津名町佐野	島の信仰と観光のメッカとなった淡路島七福神霊場秘仏開運大黒天の名刹で我が国の七福神霊場の開基の寺として有名。尊像は右手に小槌、左手に如意宝珠を持ち、蓮台に立ち、宝冠をいただく。霊験あらたかと言う。
引 撰 寺 いんじよう	淡路市津名町志筑	山門をくぐると、真正面に石造の十三重塔(県重文指定)がある。総高4m塔身の四面には如来像が彫り込まれ、台石には、嘉元二年(1304)の銘がある。又傍らの石造の五智如来像があり石造美術の寺である。
東 山 寺 とうさん	淡路市津名町長沢 淡路市一宮町遠田	東山寺は、末寺十七、寺坊三十六を数えた淡路三霊山の一つで由緒ある寺であった。山門は淡路最古の木造建築であり、薬師堂にまつられている薬師如来像と十二神将は、国の重要文化財に指定されている。
観 音 寺	淡路市淡路町岩屋	この寺は、いつ、だれが創建したか不詳であるが氏神の天地大明神の別当坊であり、嵯峨天皇の御所からの古文書があり1100年以上もたつ淡路最古の寺といわれる。本堂には弘法大師の作といわれるH面観世音菩薩(50cm)がある。
石 屋 神 社	淡路市淡路町岩屋	祭神は国常立尊。垂仁天皇の御代、ご託宣により石屋神社と唱えた。今の社殿は寛文12年(1672)領主松平阿波守の建立。社前の海岸は海水浴場になる。
生 福 寺 (十三仏霊場)	淡路市北淡町富島	この寺は僧、行基が開いたという説かおり、十三仏霊場の第H番で、阿閃(あしゆく)如来をまつている。密教の金剛界五仏の一つで、堅く握った左手は菩提心が強固なことを、右手の指先で大地を圧して降魔の意味を表し、信仰者も多い。
石 上 神 社 いわがみ	淡路市北淡町舟木	女人禁制が今なお堅く守られ、約20トンはあると思われる巨石を中心に環状石が組まれている。NHKテレビ「北緯34度32分を行く」で放映された事もあり、西の伊勢として注目を集めている。
常 隆 寺	淡路市北淡町久野々	栗林山常隆寺は、北淡路随一の秀峰常隆寺山(標高515m)の頂上近くにあり洲本千光寺と津名町東山寺とともに淡路三山の一つとして高山信仰の聖地として知られ、本尊は十一面千手観音菩薩像。
海 福 寺 (十三仏霊場)	淡路市北淡町室津	漁業者とかかわりが深いお寺で、海から福が来るといふ縁起のよい寺名である。本尊は阿弥陀如来で寄せ木造り、高さ80センチ、行基作とも伝えられ十三仏霊場の第10番目で、多くの人々の巡拝を受けている。
法 華 寺 ほっけじ (十三仏霊場)	淡路市一宮町江井	淡路島十三仏霊場第9番で、ユースホステルとしても利用されており山上からの眺めはすばらしく江井崎にも近い。

名称	所在地	特 色
淡路島七福神 弁財天霊場 智 禅 寺 ちぜんじ	淡路市一宮町草香	淡路島七福神霊場めぐりの中で、唯一の女の神様、弁財天をまつっている。近くには夫婦松かおり雌雄一対の老松が太い根によってしっかりとつながっており、「子のないものこの木に接せば霊験あり」と言い伝えられている。
伊許諾神宮 いざなぎ	淡路市一宮町多賀	いざなぎの大神、いざなみの大神を祀るお宮で、大古淡路の島で始めて正しい夫婦の道を掟てと定められ子を始め万物すべての物を生み育て国を開拓した後、この地にお鎮りになったと伝えられている。我が国にある神社の中で一番古い宮である。
妙 勝 寺	淡路市東浦町釜口	建武3年(1336)、足利尊氏が参詣し開運妙勝ついに天下を取り、幕府を開いてのち隠し寺として足利家の祈祷所にした。ここには尊氏自筆の古文書等が多く保存され淡路最古の庭園、最大の楠の木と共に、寺の建造物も高く評価されている。
潮 音 寺 (十三仏霊場)	淡路市東浦町仮屋	十三仏霊場第12盤、大日如来の霊場。
大 宮 寺	南あわじ市緑町広田	真言宗大覚寺にして広林山蓬墓院と号し本尊は、紅顔梨阿弥陀如来で秘仏である。裏山には天明2年(1782)に起こった淡路最大の百姓一揆をまつる天明志士の記念碑かおり、淡路八十八カ所の札所でもある。
大 宮 寺	南あわじ市緑町広田	真言宗大覚寺にして広林山蓬墓院と号し本尊は、紅顔梨阿弥陀如来で秘仏である。裏山には天明2年(1782)に起こった淡路最大の百姓一揆をまつる天明志士の記念碑かおり、淡路八十八カ所の札所でもある。
平 等 寺	南あわじ市緑町倭文庄田	平安時代に作られた重要文化財の薬師如来像が安置され、康和6年(1104)金名入り大般若経も寺宝として保管されている。
智 積 寺 ちしゃくじ (十三仏霊場)	南あわじ市西淡町湊	本寺は、風光絶佳の地に位置し淡路島十三仏霊場7番で、本尊薬師如来は「お薬師さん」として親しまれている又淡路四国八十八カ所32番、淡路四十九薬師9番として、近年若い人々にも人気を集めている。
春日 寺 かすがじ (十三仏霊場)	南あわじ市西淡町阿那賀	本尊は、淡路唯一の弥勒菩薩にして淡路島十三仏霊場6番に位置する。町文化財としては、室町時代の涅槃図かおり、また宝塚予科練英霊墓地の菩提寺として遺品を展示している。
国 清 禅 寺 こくせい	南あわじ市西淡町松帆	淡路島唯一の黄檗宗の寺、2代目住職は「勝算和尚」別名「ふご和尚」と呼ばれている。現在の寺は、南面の大家直原玉青氏が再建し、住職となり庭園には牡丹の花が栽培されている。
日 光 寺	南あわじ市西淡町松帆楠田	昔、慶野浜にあって日向寺と呼ばれた寺宝には「舌」のついた袈裟棒文銅樺（国重文）。墓地に並び五輪塔1基と宝旗印塔4基は県指定重文。樹齢700年幹廻りが6mの濃い茶色の樹皮がうねるようにねじれた二本の幹が寄り添った夫婦ジャクシンがある。
おのころ神社	南あわじ市三原町榎列下幡多	国生み神話に出てくる「オノコロ島」だといわれる丘の上に、イザナギ、イザナミの二神をまつる神社。境内には服部嵐雪の「梅一輪一輪ほどの暖かさ」の句碑がある。
大 炊 神 社	南あわじ市三原町志知中島大屋所	天平宝字8年(764)10月御母当麻(だけ)夫人と共に淳仁天皇は淡路に流され、ここ大屋所に住まわれたといい、かつて県史跡天皇塚に指定された埋葬地といわれる。
淡路島七福神 毘沙門天霊場 覚 住 寺	南あわじ市三原町神代社家	推古天皇の頃、聖徳太子の勅詔に依り創建されたと伝えられ、淡路七福神霊場の一つとして有名である。
宝 積 寺 (十三仏霊場)	南あわじ市三原町市十一ヶ所	淳仁天皇の御位牌が祀られている。又淡路四国八十八カ所霊場の一つとして有名である。
大和天国魂神社	南あわじ市三原町榎列山所	延喜式の大社で、淡路国の二宮であるこの神社は、大和朝廷の淡路進出にともなって祀られたものといわれている。

名称	所在地	特 色
成 相 寺	南あわじ市三原町八木馬廻	寺伝によると、仁治4年(1243)に高野山悉地院の実弘上人が高野山に模して寺院を営んだのに始まるといわれる。境内には樹齢300年をこえるクロマツイブキの大樹があり、又、周辺にはスタジイ・タイミンタチバナの群落がおる。
国 分 寺	南あわじ市三原町八木国分	天平13年(741)聖武天皇の命により全国に建立された国分寺の一つ。保存庫には本尊の木造釈迦如来坐像(国重文)と飛天像が安置されている。
栄 福 寺 (十三仏霊場)	南あわじ市三原町掃守	三原平野を一望にし、遠く小豆島を望むことが出来る第2番、釈迦如来の霊場。
真 観 寺 (十三仏霊場)	南あわじ市南淡町灘土生	当寺は、淡路島の殻南端に位置し、山麓には花あり果実あり特に自然の景観に恵まれている。古くより淡路西国観音霊場と併せて新たに十三仏5番霊場を設けて延命地藏尊を奉安し、多くの参詣者が訪れている。
萬 勝 寺 (十三仏霊場)	南あわじ市南淡町阿万上町339	島の南海岸に位置し建保3年(1215) 梶尾の明慧上人の開基である当山は淡路島十三仏第4番で普賢菩薩の霊場であり又淡路四国第12番の霊場(本尊大日如来)でもある。近くには国立青年家や若人の広場がおる。
淡路島七福神 恵美酒神霊場 万 福 寺	南あわじ市南淡町賀集かじや	淡路七福神の一つ。恵美酒さんを祀る昔から、わが国はインドや中国から多くのことを学んできたが、七福神にもそれがはっきりと現れ、六神までがもとはインド、中国の神様であるが恵美酒大神だけは日本の神様である。
淡路島七福神 布袋尊霊場 護 国 寺	南あわじ市南淡町賀集八幡	イザナギ、イザナミの命の国造りの神話からはじまり、太古より神秘的な姿を瀬戸内海に浮かべる淡路島、淡路諸大寺中屈指の古刹とされる護国寺は島内における八幡宮として最も古く、由緒正しいものとされている。

【参考資料】『兵庫観光便覧(第4版)』平成3年2月 (社)兵庫県観光連盟

URL

<http://kdskenkyu.saloon.jp/pdf/dt31jbl.pdf>

<http://kdskenkyu.saloon.jp/kdsdata.htm>